

社会科（歴史的分野）学習指導案

学校名

指導教諭

授業者

1. 対象 第2学年2組（男子19名、女子20名 計39名）
2. 日時 平成29年度5月29日（月） 第3時限（50分）
3. 場所 第2学年2組教室
4. 単元名 「産業の発達と幕府政治の動き」
5. 単元について

（1）教材観

徳川家康が作った幕藩体制では、少数の武士が多数の町人や百姓を厳しい身分制度や徴税によって統制していた。しかし、安定した社会が形成されるにつれて、都市のみならず農村にも貨幣経済が浸透し、貧富の差が拡大するようになり、幕府や諸藩の財政は苦しくなった。

この問題を解決しようと、幕府では18世紀から19世紀初めにかけて様々な改革が行われることとなったが、天災や飢餓等の影響もあり、効果的な改革ができず、町人や百姓は次第に幕府への不平や不満をつのらせていた。

この単元では幕藩体制が動揺し、倒幕へと向かっていく大きな時代の流れを、武士や百姓、町人などの立場から多面的・多角的に考えさせていきたい。

（2）生徒観

本学級の生徒は、男女ともに仲が良く、比較的落ち着いて授業を受けることができる。教師の指示を素直に聞き、作業にもまじめに取り組むことができている。しかし、社会に関する基礎的・基本的な知識、技能がすべての生徒に十分に身につけているとは言えず、全体の発表も一部の生徒である。互いに学びあう姿勢が今この学級には必要である。

（3）指導観

指導にあたっては、江戸時代の歴史の流れを捕えさせながら、社会の変動によって幕藩体制が次第に行き詰まりを見せていく過程を理解させる。また、ICTを活用して、農具の改良や特産物等の画像を見せ、他にも絵画を用いて、その時代の社会の様子を視覚的に考えさせていきたい。

6. 単元の目標

- 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。【関心・意欲・態度】
- 産業の発達や幕府政治の動きとその行き詰まり、新しい学問・思想の動きなどから課題を見だし、時代の特色と変化を多面的・多角的に考察し、表現させる。【思考・判断・表現】
- 産業の発達と幕府政治の展開に関する図番、資料、年表、歴史地図などのさまざまな資料を読み取ったり、まとめさせたりする。【資料活用の技能】
- 安定した社会が産業の発展により次第に変化し、幕府政治が行き詰っていったこと、その中で学問や思想、文化に新しい動きが見られたことも理解させる。【知識・理解】

7. 本時の目標

- 江戸時代の交通整備がされた原因が参勤交代と特産物の運搬であることを知り、歴史のつながりを理解する。
- 三都、それぞれの特徴を理解させ、現在と比較する。

8. 本時の展開

時間	学習活動	教師の働きかけ	評価
導入 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> ●前回のノートなどを振り返りながら、何の資料か考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○『大名行列図屏風』を見せ、何の資料かを考えさせる。 ○参勤交代について、もう一度解説する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇参勤交代で、大名たちが長い距離を歩いたことを知る <p>【関心・意欲・態度】</p>
展開 (40分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">江戸時代の交通の仕組みと3つの都市の特徴が分かる</div> <ul style="list-style-type: none"> ●日本各地から江戸へ向かう道が5つあったことを理解する。 東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥州道中の5つすべてが江戸へ向かうためのルートだったことを指摘する。 ●長い距離を歩くためには何が必要かを考える。 →泊まる場所⇒宿場 ●略地図を板書し、西回り航路・東回り航路を視覚的に理解する。 米の積出港が東北であったことを生徒の発言から確認し、江戸・大坂に運ばれたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参勤交代や特産物の運搬によって、江戸時代の交通路が発達したことを理解させる。 ○五街道の5つの道路の場所を、タブレットを使い、位置関係を分らせる。 ○宿場、飛脚について解説する。 ○「人は陸、物は海」であったことを伝える。 ○米が東北地方から大阪、江戸へ、海から運ばれたことを伝える。 →西回り航路・東回り航路 	<ul style="list-style-type: none"> ◇なぜ、江戸時代に交通が発展したのかが分かる。 <p>【関心・意欲・態度】</p>

	<p>●二つの資料を見比べ、江戸か大阪かを予想させる。この際、隣同士で積極的に活動させる。</p>	<p>○『江戸図屏風』と『菱垣新綿番船之図』を見せる。 →「人が多い」と「船が多い」という特徴を生徒たちに気付かせる。</p> <p>○資料を用いながらどちらが江戸で大阪だったのかの答えを示し、板書をしつつ解説する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>江戸は「世界最大位級の都市」なので人が多い。 大阪には物資を蓄えるための「蔵屋敷」があるから、船の行き来が盛ん。</p> </div>	<p>◇二つの資料を見比べ、「人が多い」「船が多い」という特徴に気づくことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 【資料活用の技能】</p>
<p>振り 返り (3分)</p>	<p>●振り返りシートを書く。</p>	<p>○本時の復習</p>	<p>◇振り返りシートが書けている。</p>

9. 板書計画

◎交通路や都市の発達

☆交通整備…日本各地から江戸に向かうためのルートを設定→参勤交代により。

㊦五街道の整備

→宿場や飛脚(手紙や荷物を運ぶ)の登場

㊦米の道



—— 西回り航路
----- 東回り航路

☆三つの都市

